

北信教育事務所だより

第7号

令和4年2月18日

～子どもに発し、子どもに還る 学校づくり・授業づくり～

共に拓く

一步一步、確かに歩み、成長している初任の先生方

令和3年度
初任研
事務所研修

10/26
教師力向上研修Ⅲ

7/6
教師力向上研修Ⅱ

5/11・18
授業力向上研修Ⅱ

6/1
教師力向上研修Ⅰ

4/13
初任研スタート研修

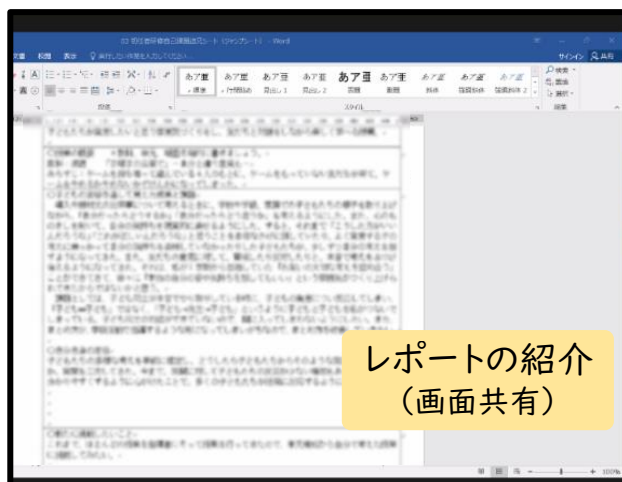
1/20 1年次プログレス研修

オンライン研修

- レポートを基にした研究協議
- 学校教育課長講話

初めての子どもとの生活、様々な仕事内容、ICTの活用等、常に新しいことを覚えることに必死で大変でした。その度に研修で同じ悩みを初任の仲間と共有したり、アドバイスをいただいたりすることで、一步ずつ成長することができたと思いました。

(「研修のまとめ」より)



レポートの紹介
(画面共有)



実践の紹介
(画面共有)

「研修のまとめ」より

研究協議

授業の導入部の大切さが分かりました。教科を問わず、授業を進めていくために、どのような手だてをとっていけばいいか、様々な立場の先生の話が聞けて、参考になりました。



一年間の振り返り「子どもの知りたいという願いに沿った授業」を意識して取り組みました。



子どもの意識の流れを感じることで課題がすわっていく、そんな授業が少しずつできるようになってきました。

課長講話

「教育は人なり」という言葉をいただき、いつどんなときでも教師、先生と呼ばれる人としての言動、子どもとの向き合い方を大切にしたいと思いました。



凡庸な教師はただしゃべる。良い教師は説明する。すぐれた教師は自らやってみせる。偉大な教師は心に火をつける。
(ウィリアム・アーサー・ワード)



初任の先生方の益々の活躍を期待しています！

今年度の取組を振り返り 来年度の方角を見通す

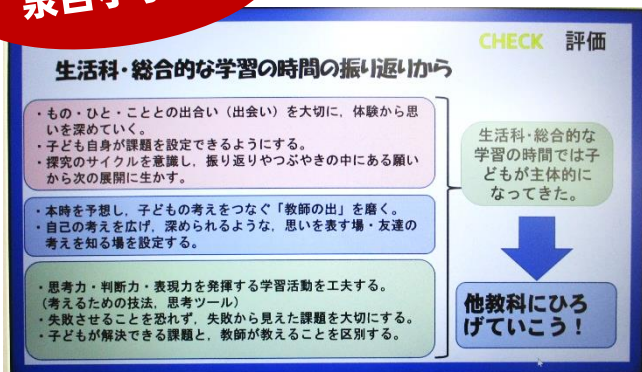
第3回 北信地区研究主任研修会（1月17日、2月3日にオンラインで開催）

全職員で共通理解しながら、授業改善を進める。

泉台小学校

生活科・総合的な学習の時間を軸にした授業改善

研究主任 伊東あゆみ 先生

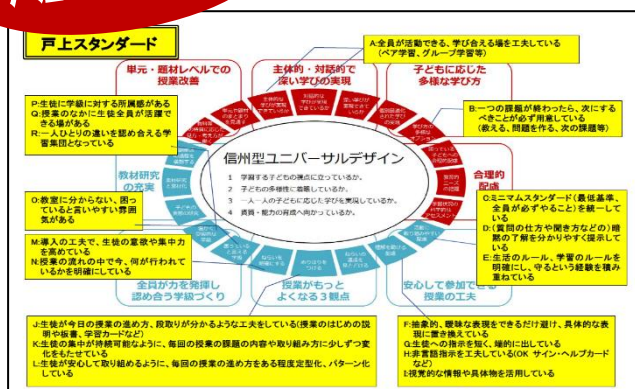


「探究的な学び」についての共通理解を職員間で進め、まずは、生活科・総合的な学習の時間でPDCAサイクルを意識しながら実践を積み重ねました。実践を振り返る中で、生活科や総合的な学習の時間の取組の成果を他教科での授業改善に生かそうと考えました。このように、授業改善を全職員で進める中で子どもたちはもちろんのこと、教師集団もさらに前向きに取り組んでいます。

戸倉上山田中学校

特別支援教育の視点での授業改善

研究主任 宮崎 崇 先生



学習に困難を抱えている生徒の姿を想像し、18の具体的な手だてを決めだし、信州型ユニバーサルデザインに重ねたものが、「戸上スタンダード」です。多様な学び方を求めるすべての生徒にとって学びやすい支援とは何かを考え、全職員で「戸上スタンダード」を意識した授業改善を進めています。「戸上スタンダード」と合理的配慮を組み合わせながら、学びやすい授業づくりに取り組んでいます。

2つの学校に共通して言えることは、**全職員での取組を進めようとしているところ**です。研究主任がリーダーシップをとり、**目指す子どもの姿の具現に向けた歩み**を進める。そういった歩みの中で、**指導主事の学校訪問を適宜組み入れている**ことも共通しています。各学校へは、「教育事務所研修×訪問支援活用例」をお配りしています。次年度以降も、授業改善の取組に指導主事の学校訪問をご活用ください。

どのように振り返り、次へつなげるか。

2 カリキュラムを振り返る視点

何を視点に、本年度の取組を振り返ればよいのでしょうか。

- ☐ 学校教育目標
- ☐ 目指す子どもの姿
- ☐ 学校として育成を目指す資質・能力

⇒ グラントデザインに即して、子どもの具体的な姿から振り返ってみてはいかがでしょうか。

「つけない力にこだわってやっていきたい…」研修に参加した高山小学校研究主任 増田先生の言葉です。研修ではグラントデザインに即して、子どもの姿を振り返るということをお伝えしました。次のことを全職員で共有してはいかがでしょうか。

- ☐ 来年度、どのような力を身に付けられるようにするのか。また、どのような子どもの姿を願うのか。
- ☐ その具現のために、どの時期に、どの教育活動で、どのようなことをすべきか。

ぜひ、本年度の振り返りを次年度につなげましょう。

「生きて働く」 道徳教育の全体計画づくり

～全教育活動を通じて行う道徳教育での指導を目指して～

道徳教育の全体計画は、すべての学校で作成されていることと思います。しかし、“教科化を機に作成されたまま”になっていませんか？「作成そのものが目的化していないかな？」「本校の子どもたちの実態に合っているかな？」など、見直しを行うチャンスです。

本校の「育てたい子ども像」は…

(例)「笑顔であいさつができ、約束やきまりが守れる子」

【道徳教育の全体計画等の見直し】

- ① 道徳教育で育てたい子供像を明確にする
→道徳教育の重点目標を設定する
- ② 各学年の重点目標、内容項目の重点を設定する
- ③ 道徳科の指導方針を明確にする

参考資料：特別の教科道徳『アシスト+』

育てたい子ども像に関連の深い内容項目を洗い出してみよう。



【重点内容項目 B 礼儀 C 規則の尊重】

【内容項目の重点は指導に生かされていますか？】(見直しのポイントと取組の例)

○内容項目の重点は、年に複数回、道徳科の授業で扱っていますか？	○教科等の授業でも重点内容を意識した取組を行っていますか？	○行事などの特別活動においても、内容項目の重点に関わせた取組を行っていますか？
<道徳科の授業で> “礼儀”については指導時間数を増やそう。 Ⅰ学期（または前期）に重点的に扱おう。  ＊『年間指導計画』の、主題の配列を変えたり時間数を増やしたりする。	<国語の授業で> お願いやお礼の手紙を書こう。(礼儀)  図書館へ行こう。(規則の尊重)  ＊『別業』にまとめるなど、道徳科の授業以外での取組を整理する。	<全校朝会等で> あいさつや決まりについての話をします。  <学級活動で> みんなで決めたクラスのきまりを守っていきましょう。 

作成した年間指導計画や別業の一覧を掲示し、指導できた項目はマーカーでチェックするなどして、日々の道徳教育が確実に行えたかを振り返り、その結果として見えてきた子供のよさや課題を考察して、指導計画や指導方法の改善につなげていくこともできます。

全職員で共通理解を図ることで、目指す子ども像に向かう重点内容項目として据えたものについて、機会を逃さずに指導ができるようになります。

道徳教育の全体計画も、実行性のあるものになるよう見直してみましょう。

参考資料：「令和3年度 道徳教育推進研修」 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 浅見 哲也 氏 ・ 飯塚 秀彦氏 講義資料

そう、道徳は楽しい
「特別の教科 道徳」アシスト+



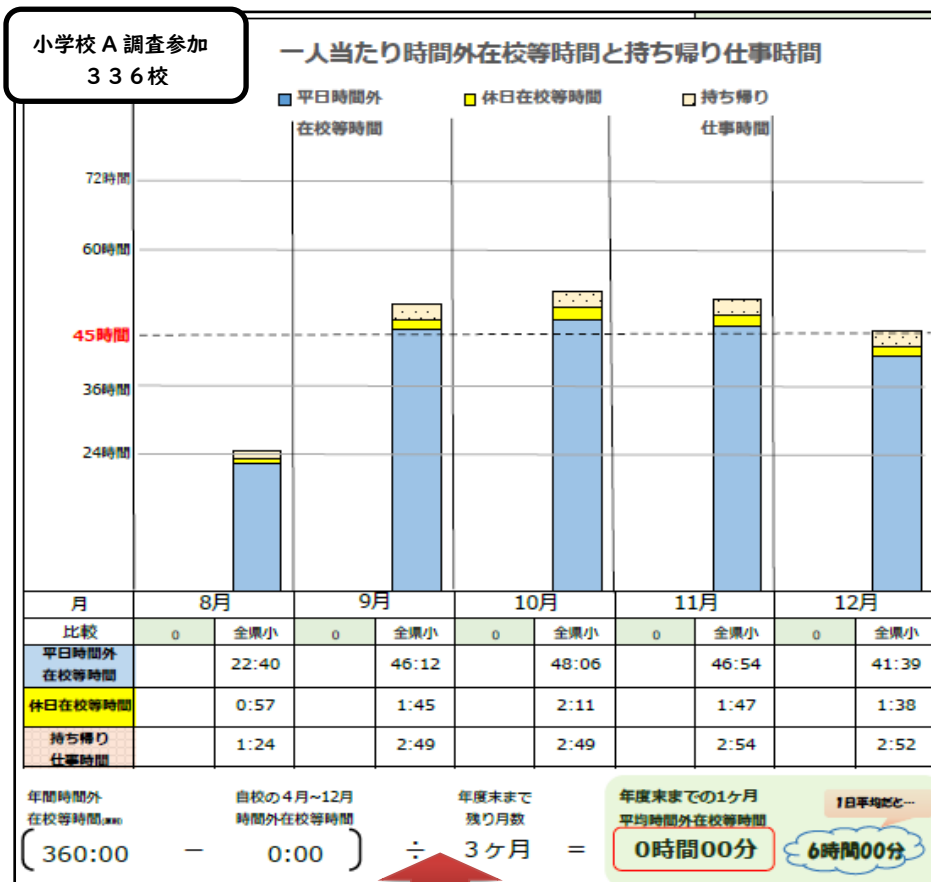
特別の教科道徳『アシスト+』も参考になります。

「学校の働き方改革」の今

県教育委員会では、「学校における働き方改革推進のための方策」を策定し、長時間勤務という働き方を改善する取組を進めています。その中で、まずは教員の時間外在校等時間が年間を通して、1か月45時間以内、年間360時間以内になることを目指しています。御存知ですか？

働き方改革通信（県教育委員会）1月26日号「わたしたちの働きかた2021」では、「8～12月教職員の在校等時間等の調査」A調査校の集計結果が報告されました。自校と全県とを比較し今後の取組を検討することができる、ワークショップ版を以下の二次元コードよりぜひ御活用いただき、1か月45時間以内、年間360時間以内になることを目指しましょう。

「8～12月教職員の在校等時間等の調査」A調査校の集計結果



先生方の学校でも自校の時間外在校等時間の縮減状況及び今年度の業務改善の取組等を検討し、働き方改革推進の取組を一層進めていただきますようお願いいたします。

【小学校・中学校
ワークショップ版】



今回の新型コロナウイルス感染症対応は学校にとって、先生にとって、子どもたちにとって何が大事かという観点から、これまで積み重ねてきた業務の在り方や教育活動を見直す時間でもあったと思います。子どもたちにとって本当に必要な業務かどうかを考慮しながら、今後の業務精選の検討の際に、こちらもご活用ください。

【全国の学校における
働き方改革事例集】



学校における働き方改革推進のための方策【概要版】

1 目的

長野県教育委員会

- 質的な視点
 - ・心身の健康を保ちながら、生き生きとやりがいを感ずる豊かな教職生活を送る
 - ・教職員としての専門性や創造性を高め、子どもたちへの質の高い教育を実現
- 量的な視点
 - ・時間外在校等時間の縮減（原則年 360 時間以内及び月 45 時間以内）

ココ注目

2 方策

※ワーク・エンゲイジメント：仕事に誇りをもち、仕事にエネルギーを注ぎ、仕事から活力を得て生き生きしている状態

	(1) 学校業務の協業化・分業化・外部化・システム化による業務の削減	(2) 家庭・地域・関係機関・企業等との連携・協働体制の構築	(3) ワーク・エンゲイジメントの高い職場づくりとワーク・ライフ・バランスの実現
【A】各学校の取組	① 信州型コミュニティスクール ・効果的活用促進	① 学校単位の働き方改革推進 ・重点的に取り組む期間や自校の取組の成果や課題を振り返る期間の設定	① バランスの取れた学校生活・家庭生活 ・「長野県中学生期のスポーツ活動指針」や「長野県中学校の文化部活動方針」の基準に沿った課外活動や部活動等の運営の徹底
	④ 校内外の会議や研修会等 ・短縮、効率化、オンラインツールの効果的活用	② 学校・保護者・地域間の迅速な情報共有 ・連絡手段のデジタル化推進	② メンタルヘルス対策の充実 ・学校における労働安全衛生管理体制の整備
	⑥ 行事や日常業務 ・精選や見直しの推進	③ 学校事務職員の学校経営参画 ・主体的、創造的な参画の推進	
	⑦ 学校・家庭・地域等の役割 ・分担見直しや関係の再構築		

ココ注目

信州型コミュニティスクール

北信地区活動だより

NO. 20 (令和4年1月) 北信教育事務所生涯学習課 文責：指導主事 岡田 絵美

昨年から続くコロナ禍の中で「直接会うことが難しく、交流活動が停滞してしまう」という悩みを抱えている学校が多くなっています。一方で、オンラインを使用する機会が増えてきている状況があります。20号では、オンラインの良さを活かして交流活動に繋げた事例をご紹介します。

屋代小学校



「シニア大学『Zoomチャレンジ倶楽部』とのオンライン交流活動」

千曲市立屋代小学校2年生では、コロナ禍でも交流活動ができる方法を探っていました。そこで、以前からつながりのあった、長野県長寿社会開発センター長野支部のコーディネーターと相談して実現したのがこの活動です。交流相手の「Zoomチャレンジ倶楽部」(以下ズムチャレ)には、シニア大学の在校生やOB等、60~70代の方々が参加しています。コロナ禍で繋がりが減っている中でZoomの基本操作を学び、学びを活用してメンバーと交流することを目的としています。

コロナ禍により交流機会がなかなかつくれずにいた小学校と、学んだZoomの技術を活用しながら交流の幅を広げたいシニア、どちらにとっても素敵な活動になることを願い、本活動が始まりました。

■ オンラインでの初めての交流

交流は、2年生2クラスが行います。この日は、竹組さんの初めての交流活動でした。画面にシニアの方々の顔が映ると子ども達の表情がぱっと明るくなりました。自己紹介では、シニアの皆さんが、自分の好きな果物と名前を紹介する度に、子ども達は笑ったり、拍手をしたり「同じだ!」とつぶやいたり、楽しそうな雰囲気です。クイズの場面では、難しい問題に、子ども達もシニアの皆さんも一喜一憂していました。シニアの方が正解すると思わず子ども達が拍手する場面も見られ、画面越しでもつながりを感じられている様子が見られました。

こいでも、こいでも、おなじところを行ったり来たりするものはなんでしょう。(シニアの人分かるかな?のつぶやき)



ズムチャレの皆さんは紙に答えを書きます
「ブランクですか?」

正解!!
シニアの人、超すげーじゃん!!



ポイント「何を事前に打ち合わせしましたか?」

活動を計画した、屋代小学校の末廣先生・中村先生と、長寿社会開発センターの斉藤コーディネーターさんに、打合せの内容についてお聞きしました。

最初に、この活動で、**お互いに何を狙いたいのか**を話しました。シニアの皆さんが求めること、子ども達がどうなると良いのかを、お互いに確認できたので、何をすれば良いのかが具体的に決まり、準備する事ができました。



【末廣先生・中村先生】

そうですね。**目指す方向が決まると、やりたいこと、準備することが見えるので、目的をはっきりさせることが一番大事**かもしれません。他には、シニアの方が今どんなことができるのか、子ども達がどんなことをしているのか、今の状況について情報交換しました。**活動主体となる子ども達やシニアの皆さんの現状を知ることが必要**だなと思います。

はい。シニアの皆さんの様子を子ども達に伝えることで、子ども達も相手意識をもって活動できたのではないかと思います。



活動へのねがい・成果・今後の展望

【末廣先生・中村先生】

①何を願って活動を計画しましたか？

2年生は入学からコロナ禍での生活で、ふれあいの機会がとても少ないことが気になっていました。だから人と接する体験をし、関わることの良さや楽しさを味わってほしいと願いました。



【斉藤コーディネーター】

コロナ禍で場が失われ、目標となる活動がなくなっていったシニアの皆さんが、学んだ事（趣味や特技等）を発表できる場としたい、また学んだオンラインスキルを生かして社会参加ができれば、と考えていました。

②実際に活動してみて、どのような良さがありましたか？

画面で顔が見えて繋がることができたことで、相手を意識した活動ができました。子ども達はとても楽しんでたし、また会いたいと意欲を高めています。

オンラインを通して実施できたことで、コロナ禍でも自宅にいながら、距離や世代を超えて交流ができました。感動して涙する参加者もありました。

③良さを生み出したのは、どんなしかけや工夫があったからだと思いますか？

一人一台端末の環境が整ったことは大きかったです。校内の他の活動でも相手が楽しむにはどうしたら良いのかを意識してきました。子ども達は今回、シニアの皆さんを意識し、必要感を感じて活動できていました。

事前の打ち合わせで、この活動で何をを目指すのかを学校と共有しました。やりたいことがはっきりしていたので参加者一人ひとりが個人として参加できる場面を作ることができたのかなと思います。

④今後の展望は？

オンラインで意欲も高まっていますし、実際に会えると嬉しいですね。子ども達の生活圏でも地域の方と顔が見える関係を築き、人との温かい交流を通して地域を好きになってもらいたいです。

より個人の顔が見え、名前が呼び合えるほど関係が深まるといいですね。リアルとオンラインをうまく組み合わせることによって、新たなつながりづくりができるかもしれませんね。

- ・シニアのみなさんが毎日元気にしていることが分かってよかったです。
- ・みなさんがすごくやさしかったから、またやりたいです。

【子ども達の声】



【シニアの方の声】

・子ども達のパワー、勢いにビックリ。日頃感じられない感覚がありました。自分の中の普段気づかない温かな気持ちを子ども達に引き出してもらい、嬉しかったです。



「～コミュニティスクールの充実に向けて～ 経験豊かなシニアの皆さんとの活動を計画してみませんか」



今回ご紹介した「ズムチャレ」をはじめとして、シニアの皆さんが明るく豊かに社会参加していくためのネットワークや活動の基盤づくりを行っているのが、「公益財団法人 長野県長寿社会開発センター」です。センターでは、学びを生かした社会参加などのコーディネートも行っています。

○交流活動 ○昔の遊び ○休み時間交流 ○… といった活動を共に創り上げていきませんか。

【問い合わせ先】

◎長野支部（長野市、須坂市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、信濃町、飯綱町、小川村）

〒380-0936 長野市大字中御所岡田98-1（長野保健福祉事務所）

026-228-7023 担当：斉藤コーディネーターさん

◎北信支部（中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村）

〒389-2255 飯山市大字静間1340-1（北信保健福祉事務所）

0269-62-3725 担当：松永コーディネーターさん

お気軽にお問い合わせください

地域とともにある学校づくりの充実に向けて、学校や地域に出向いての信州型CSの基礎研修や実践事例の紹介などをします。お気軽に連絡していただけたらと思います。

■■お問い合わせ先■■

北信教育事務所生涯学習課 〒380-0836 長野市大字南長野南県町686-1 担当：岡田
Tel：026-234-9552 E-mail：hokushinkyo@pref.nagano.lg.jp